

2009年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

■研究・社会活動の概要（実施内容、成果等）

研究代表者は2002年から日本の大学生を対象に無記名アンケート「飲酒に関する大学生の意識調査」を行っている。2003年以来、この調査結果は朝日新聞（「飲酒、半数が『強要された』」2003年8月13日）、他で紹介された。また、国外にも発表の機会を得てきた。2008年には、アサヒビール株式会社「未成年者飲酒予防基金」の研究助成を得て、国際学会での発表を行った（*Japanese College Students' Attitudes Toward Alcohol Consumption: A Survey-Based Study with Implication for Gateway Drug Education*, 8th International Conference on Diversity in Organizations, Communities and Nations, HEC, Montreal, Canada）。小規模ではあるが、このような研究の蓄積から、酒類という薬物に影響を受ける人間と社会に注目し、適正飲酒教育のあり方を探る——そしてその研究成果を一つの適正飲酒教育のモデルとして広く社会に還元する、これが応募者の研究の目的である。

現在、北海道大学において、大学生を対象に、適正飲酒教育の実践を試みている。①大学生（過去に「イッキ飲み」により死者を出した寮で組織されている飲酒事故防止対策委員会）、②酒害者（アルコール依存症者）及びその家族による自助グループ、③酒類製造販売を行う企業が、それぞれの立場からどのように適正飲酒のあり方を説いているかなどを調査し、それが社会全体からどのように評価され得るか、未成年者を含む受講者らとともに分析を加えるというものである。

このうち、全学教育科目主題別科目「社会の認識」という授業の枠組みの中で2005年度に開講したのが、「社会問題としての飲酒」と題する講義である。この授業は教育学・人類学・社会学等、社会科学の視座によりながら、複雑な現代社会を解きほぐしていくことを踏まえて、特定の学問分野・方法論を学ぶというより、人々の行為と社会のさまざまな諸問題を分析するためにどのようなアプローチが可能であるのか、担当者が授業内容をデザインして受講者に提供するものである。このような視点で、およそ15週にわたる「適正飲酒教育」を実践している例は他にみられないものである。また、酒類製造販売を行う企業による適正飲酒教育、社会貢献活動や、地域の断酒会のみなさまの声等を「生きた教材」として、教育の中に取り入れていることも独創性ある試みである。さらに未成年者を多く含む受講者を対象とした無記名アンケート調査の結果が説得力のある教材となっている。この教育実践の分析が本研究の軸となっている。

本概要では「社会問題としての飲酒」を【授業1】、大学院（教育学院）で担当する授業「国際多元文化教育基礎論Ⅰ」を【授業2】として表す。

概ね、申請書記載の研究・活動計画及びスケジュールに従って、研究活動を行った。詳細については別途、活動報告用紙（3）に記した。

2009年4月

*【授業1】、【授業2】開講（～8月）

* 無記名アンケート調査「飲酒に関する大学生の意識調査」（2009）実施

* 上記アンケート集計及び資料作成開始（～6月）

* 断酒会家族会（札幌連合断酒会家族会）との打ち合わせ（翌月の【授業1】、【授業2】について）

*（発表・報告）『大学における適正飲酒教育の実践——「社会問題としての飲酒」』

2008年度アサヒビール株式会社未成年者飲酒予防基金報告会

アサヒビール株式会社

*アサヒビール株式会社社会環境推進部宛てに企画書提出（学外有識者派遣依頼）

2009年5月

*眞崎睦子「若者と薬物—飲酒に甘い社会が入り口に」『朝日新聞』「私の視点」に掲載（2009年3月投稿、4月校正等、5月1日朝刊掲載）

*【授業1】、【授業2】断酒会家族会の方々（2名）にゲストスピーカーとしてお話しいただいた。

*断酒会（札幌連合断酒会）との打ち合わせ（翌月の【授業1】、【授業2】について）

2008年6月

*【授業1】、【授業2】断酒会の方々（3名）にゲストスピーカーとしてお話しいただいた。

*眞崎睦子「札幌連合断酒会40年の歩み—その1/8に接して」『40年の歩み』（札幌連合断酒会、2009年6月、p.11）

*札幌連合断酒会40周年記念集会出席

*【授業1】、【授業2】レポート課題提示

2008年7月・8月

*【授業1】、【授業2】アサヒビール株式会社社会環境推進部小沼克年様にゲストスピーカーとしてお話しいただいた。

*【授業1】、【授業2】レポート課題受取・評価など

*（講演）北見・オホーツク紋別・遠軽断酒会合同勉強会

「自助組織・断酒会の健全なあり方について」（北見市総合福祉会館2009年8月9日）

2009年9月

*眞崎睦子「『自助組織』って何？—薬物教育の栞」『きぼうの虹』（北海道大学生協同組合、2009年9月、324号、p.1）

2009年11月

*プリンストン大学 the Alcohol Coalition Committee（アメリカNJ州）メンバーとの意見交換：

Vice President of Campus Life, Janet Dickerson (the executive sponsor of the ACC)
Dr. Sanjeev Kulkarni, Professor of Electrical Engineering, Master of Butler College
(creator and co-chair of the strategic planning process and ACC member)

Amy Campbell, Director, Campus Life Initiatives, Office of the Vice President for Campus Life, (ACC co-chair)

*（論文提出）「日本の大学におけるアルコール飲料の取り扱いと適正飲酒教育—酒販売及び提供に関する生協の役割を探る」（第6回生協総研賞・研究論文集）

2010年2月

*断酒会家族会（札幌連合断酒会家族会）今年度の活動報告

*2009年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告用紙作成

2010年3月

*（発表・報告）「日本の大学におけるアルコール飲料の取り扱いと適正飲酒教育—酒販売及び提供に関する生協の役割を探る」（於公益財団法人生協総合研究所）

*断酒会（札幌連合断酒会）、札幌連合断酒会家族会との打ち合わせ（2010年度の【授業1】、【授業2】について）

*北海道大学恵迪寮自治会飲酒事故防止対策特別委員会との打ち合わせ（2010年度の【授業1】、【授業2】について）